

## 富士総合火力演習研修

神奈川地本カレッジ防衛モニター 阪西 貴広

8月28日(日)、カレッジ防衛モニターとして、富士総合火力演習を研修した。本演習は、通称総火演と言われ、陸上自衛隊が毎年行っている実弾を使用した大規模な演習を一般公開している。

総火演は、目の前で実弾が発砲されるため衝撃波を体感できるとともに、実際に装備品がどのような場面で用いられているのかを理解することが出来る。また、迫力もさることながら、その練度には驚かされる。例えば、戦車が行進間の射撃で800mほど先の的に命中させる。これだけの精度を生み出すには、相当な鍛錬が必要なが見取れる。

本演習は、数日間わたる予行演習を経て、最終日には防衛大臣などが視察する本番がある。今回の研修では、その本番に参加することができた。天候は晴れであったが、厚い雲が発生しており航空機などの一部が視認できなかったのは残念であったが、それでも間近に見る実射は迫力満点だった。

今回の、総火演の研修を通じて、改めて自衛隊の練度の高さを実感するとともに、日々の鍛錬の大切さを思い知らされた。

## 護衛艦「いずも」研修を支援

神奈川地方協力本部小田原地域事務所(所長 米田2陸尉)は、9月21日(水)、湯河原町長及び真鶴町長をはじめとする行政関係者25名と募集対象者等40名に対する護衛艦「いずも」の研修を支援した。

本研修は、湯河原町出身の第1護衛隊司令(渡邊雄一 等海佐)が所属する護衛艦「いずも」が、相模湾湯河原沖合に停泊するにあたり、自治体との連携強化及び自衛隊広報の一助になればとの司令の提案により実現したものである。当日は、湯河原町福浦漁港にて作業艇に乗り込み、停泊中の同艦まで移動し乗艦した。艦内を見学した参加者達からは、「想像をはるかに超えるスケールで驚いた」「とても貴重な研修ができて感動した」との声が聞かれるなど、満足した様子であった。

小田原地域事務所は、「今後も、自治体と更なる連携強化を図るとともに、自衛隊の魅力を理解してもらえよう、引き続き努力していく」としている。



ブリーフィングの様子



艦内説明を受ける地元高校生



司令から記念盾を受け取る真鶴町長



格納庫で司令から説明を受ける研修参加者



艦橋をバックに記念撮影する湯河原町長と湯河原行政関係者

## 海の仕事！「腰越漁協みなとまつり」で広報

神奈川地方協力本部藤沢募集案内所(所長 眞津准陸尉)は、9月25日(日)、鎌倉市で行われた「腰越漁協みなとまつり」において広報ブースを設置し、広報活動を実施した。本まつりは、腰越漁業協同組合が主催し、「海と魚で遊んじゃえ」をテーマに、海上では稚魚の放流や江の島近くまで進出しての船釣り体験、港では鮮魚の販売などが行われた。また、鎌倉市内の各学校及び市民団体による演奏やパフォーマンスによるステージイベント、在日米陸軍音楽隊によるレパートリー豊かな演奏が行われ、大いに賑わいを見せた。

自衛隊ブースでは、募集説明や募集相談員による海自制服・迷彩服の試着などを行い、地域住民との交流を通じて募集及び防衛基盤の拡充を図った。

藤沢募集案内所は、「今後も、地域に密着したイベントに積極的に参加していく」としている。



募集相談員の協力による制服・迷彩服試着体験と写真撮影会



在日米陸軍音楽隊のステージの様子